

1・2年 単元名「イルカの暮らしと地域のつながりを学ぶ」

(2時間)

1 単元設定の理由

積丹半島は大型海洋生物も観察できる雄大な自然に恵まれた地域である。しかし、子どもたちはそれらの大型海洋生物を身近に観察することができず、近海にやってくる鯨類への知識もほとんどない。そこで、水族館で観る機会も多いバンドウイルカの実物大模型の作成をきっかけに、海洋ほ乳類の身体のしくみや生態を学び、近海に生息する生物への興味と愛着を誘発する。

2 単元目標

積丹半島の海にも生息（季節回遊）しているイルカの模型づくりを通して、地域の海や海洋生物に対する関心を育む。

3 単元の評価基準

- ・地域の海に野生のイルカが生息していることを理解できる。
- ・イルカの大きさや体のしくみを理解できる。
- ・海にも家族や社会を持って暮らしている生きものの世界があることを理解できる。

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
	<事前学習> ・家族や身近な人から「イルカを見たことがある人」「イルカやクジラを食べたことがある人」を探し、インタビューをしてくる。	・当日の講師から地域のイルカについての「質問状」を児童に配り、積丹町の人々とイルカの関わりについて学べるようにする。
1	●講師の紹介 ・伊豆諸島や小笠原諸島で野生イルカの研究をしている研究者である篠原氏の紹介。 ●地域にイルカがいることを認識する。 ・事前学習で地域の人に聞いてきたイルカのことを発表し、実際に「どこに」「どのように」イルカが生息しているのか。また地域の人々がどのようにイルカ（鯨類）と関わってきたかを知る。 ●実物大のイルカ模型をつくり、体のつくりを学ぶ ・プラスチックシートでつくった実物大のイルカの胴体に各ヒレや目・噴気腔などを、イルカの水中映像を見ながら位置や付き方を確認しながらつけていく。 ・ヒレなどがついたら、イルカが海で生きていくために必要なものはないか、自分たちの体と比べて考える。「食事を食べたなら、そのあとはどうなる?」「このイルカはオスかな、メスかな?」など。	・調査風景の写真や映像を流し、実際に研究をしている様子を見せ、研究者から直接学べることを印象づける。 ・積丹半島の海で見られるイルカの様子を具体的にイメージできるようにする。 ・地域に伝統食として伝わる「クジラ汁」として、イルカの仲間（クジラ）が食料として利用されてきたことを伝える。 ・指導者は教えたり修正することはせず、児童が映像を見て、仲間と相談をしながら作成できるようにサポートをする。 ・位置だけでなく、ヒレ等をどのように動かしているのか、息はどうやってしているのかなど、行動の観察もできるように誘導する。

		<ul style="list-style-type: none"> どうしてもわからない場合は、児童自ら「イルカ博士（研究者）」に質問をして回答を得る。
1	<p>●イルカってどんな生きもの？～暮らしを知る</p> <p>・イルカに一番近い仲間はだれ？</p> <p>サメ: ずっと海で暮らす生きもの。泳ぎ方・食べものが同じ。 アザラシ: 海のは乳類。鼻の孔が開閉して海面で呼吸をする。 カバ: 祖先が一番近い。イルカの祖先は陸で暮らしていた。</p> <p>・イルカも眠る。眠り方は？</p> <p>泳ぎながら眠る: 野生のイルカ 水面に浮いて眠る: 危険がない水族館のイルカ 岩の影に隠れて眠る: カメなどの休憩方法</p> <p>・イルカの社会を知る。</p> <p>ひとりで気ままに旅をしている: ミナミハンドウイルカのオスなど 家族と一緒に暮らしている: ミナミハンドウイルカのメスと子どもなど</p> <p>●まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積丹半島の海はイルカのほか、トドやアザラシなどの哺乳類、それらの餌になる多くの魚介類がいる豊かな海である。 ・積丹半島のイルカの生活はまだまだ分かっていない。地域の人が関心をもって見ていくことが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの正解を伝えることを目的としない。 ・正解を発表する前に、それぞれの答えにいきついた理由を児童に発表させる。自分の意見を発表すること、人の意見を聞くことを学ぶ。そして視点を変えると、いろいろな考えがあることを学ぶ。 ・各回答のあとに、研究者からの解説を聞く。解説を通して、イルカをはじめ海洋生物にもそれぞれに海での暮らしがあることを知る。 ・地域の海は、人間の食料になる魚介類がいるというだけの場所ではなく、多くの生きものが生活をしている場であることを理解できるようにする。 ・イルカに興味をもったら、イルカが何を食べているのか、どのようなイルカがいるのか、海の本を揃えたので、自分たちで調べるように導く。
<p>◎外部連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部連携団体：特定非営利活動法人 海の環境教育 NPO bridge、海辺の環境教育フォーラム ・外部講師：帝京科学大学生命環境学部自然環境学科准教授・篠原正典 <p>◎教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存教材：環境学習キット「実物大のイルカをつくろう！」（海の環境教育 NPO bridge） ・作成教材：事前学習ワークシート「質問状」、「イルカのクイズ」（作成：海の環境教育 NPO bridge および「LAB to CLASS プロジェクト」） 		